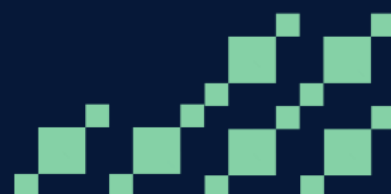




AMARU: CARDANOブロックチェーン
エコシステム予算
提案 2026

2026年2月17日



目次

ビジョン.....	2
エグゼクティブサマリー.....	2
2025年の振り返り.....	2
期間とマイルストーン.....	2
合計予算要求.....	3
`\$225k`は現実的な数字か？.....	3
2025年の残余資金による2026年への移行.....	4
トレジャリー管理の透明性.....	5
チームと予算管理.....	5
私たちについて.....	5
予算管理.....	6
オンチェーンプロセス.....	7
オフチェーンプロセス.....	7
プロジェクト管理と貢献.....	8
四半期報告.....	8
予算内訳.....	9
全体像.....	9
要求総額.....	11
USD小計.....	11
トレジャリー評価レート.....	11
コンティンジェンシー: 市場リスクバッファー.....	12
最終要求総額.....	12
憲法適合性チェックリスト.....	13
第I条 - 第1項: 基本原則.....	13
第II条 - 第3.1項: スマートコントラクトの使用.....	13
第II条 - 第6.1項: 形式.....	13
第II条 - 第6.2項: 関連性.....	13
第II条 - 第7.1項: 引き出しの条件.....	13
第II条 - 第7.2項: 過去の引き出しの開示.....	14
第II条 - 第7.3項: 純変動限度額.....	14
第II条 - 第7.4項: 定期監査.....	14
第II条 - 第7.5項: 管理.....	15
第II条 - 第7.6項: トレジャリーの監視.....	15
ガードレール.....	15
結論.....	16

ビジョン

Amaruは新しい完全に相互運用可能なブロック生成ノードを構築するオープンソースプロジェクトであり、安全性とセキュリティを損なうことなく、Cardanoネットワーク全体のアクセシビリティと堅牢性を向上させます。Amaruはステークプールオペレーターおよび開発者の双方に新たな視点とソリューションを提供し、低いハードウェア要件とシームレスなユーザーエクスペリエンスを優先します。本プロジェクトは主にRustで実装されており、エコシステムのコアメンテナンスに新たなコントリビューターを引き付けることを目指しています。

これは2025年半ばの予算およびトレジャリー引き出しの成功に続く、2回目の予算提案です。最初の配分のおかげでこれまでに達成した成果を振り返り、2026年の目標、範囲、スケジュールを詳述します。

エグゼクティブサマリー

詳細とコスト内訳にさらに踏み込む前に、要求の概要、我々が行ういくつかの前提、およびこの予算の全体的な方向性を示します。

2025年の振り返り

本文書の付録として、2025年のロードマップの完全な振り返りを提供します (<https://ipfs.io/ipfs/bafybeib3shps4kxggpy477uuhwoeqcy2qgi2wrniuiujm7fc56x2j6lhwe>)。これには、昨年提示されたロードマップ項目と対応する成果物との詳細な比較が含まれています。

期間とマイルストーン

この提案は12ヶ月にわたり、2026年1月から12月まで、複数の成果物、デモ、ワークショップが実施されます。

主要な成果物として、以下を挙げます：

- 2026年第1四半期にリレー対応ノード
- 今後のイントラエラハードフォーク統合 (2026年第1四半期の可能性が高いものの、本提案執筆時点ではハードフォークの正確な日付は未定)
- 2026年第2四半期末までにブロック生成ノード；

- プロトコルの計画的改善 (Leios、Peras、Phalanx、分散型メッセージキューなど) をカバーする年間を通じた実験とプロトタイプ;
- 下半期にStarStreamやMidgardなどの主要な統合。

Cardanoのガバナンス制約 (例: 純変動限度額の不足) により、この提案を年内の遅い時期に延期せざるを得ませんでした。しかし、2026年も活動は停止しませんでした。そのため、2026年初頭の予算の一部を遡及的に使用します。これが、この予算が依然として12ヶ月をカバーする理由です: 2026年1月と2月を含んでいます。

合計予算要求

要求総額は`A10,142,000` (USD予算`\$3,042,500`をカバー) です (2026年度)。詳細な予算内訳を以下に示します。

すべてのスコープはFTE (常勤換算) で見積もられており、平均時給市場レートに基づいています。エコシステム内の委託先やサービスプロバイダーとの1年間の取引実績から、平均時給は約`\$108`となり、年間請求レートは`\$225k`となります。

我々は引き続き`0.5` ADA [`A`] per USD [`]`という保守的な換算レートを使用しています。このレートは過去2年間の加重平均価格計算に基づいており、`\$0.5`から`\$0.6`の価格帯となります。我々は“bearishly”その範囲の下限を「弱気に」考慮しています。

`\$225k`は現実的な数字か？

`\$225k`という価格は文脈から切り離すと高額に見えるかもしれませんが。さらなる説明が必要と考えます:

- Amaruはかなりニッチな業界における重要かつ高度に専門化されたソフトウェアコンポーネントです。この分野を熟知する専門家を見つけることは困難であり、コストも高くなります。
- 参考となる前例があり、目標年間請求レートの設定に役立ちました:
 - "Input Output Engineering Core Development Proposal for 2025"
https://explorer.cardano.org/governance-action/gov_action13tfag48nf94rtjcdq7c06vhkslmxxw9h6c88sl7q5g5nnewcsvlqz6d98zp FTE当たり年間`\$302k-\$346k` (140-160 FTEで`\$48.4M`)
 - "TWEAG's Proposals for multiple core budget projects for Cardano 2025"
https://explorer.cardano.org/governance-action/gov_action13tfag48nf94rtjcdq7c06vhkslmxxw9h6c88sl7q5g5nnewcsvlqudh2k4c FTE当たり年間`\$332k` (時給`\$160`)
 - "MLabs' proposal for Core Tool Maintenance & Enhancement: Plutarch"
https://explorer.cardano.org/governance-action/gov_action13tfag48nf94rtjcdq7c06vhk

- [slmxxw9h6c88sl7q5g5nnewcsvlq63cfnf0](https://explorer.cardano.org/governance-action/gov_action13tfag48nf94rtjcdq7c06vhk_slmxxw9h6c88sl7q5g5nnewcsvlq63cfnf0) FTE当たり年間`\$285k` (1400時間で`\$192k`、時給`\$137`)。
- "Midgard's proposal for Optimistic Rollups"
https://explorer.cardano.org/governance-action/gov_action13tfag48nf94rtjcdq7c06vhk_slmxxw9h6c88sl7q5g5nnewcsvlqqfgyy3v FTE当たり年間`\$215k`。
 - "Scalus's proposal for DApps Development Platform" (
https://explorer.cardano.org/governance-action/gov_action13tfag48nf94rtjcdq7c06vhk_slmxxw9h6c88sl7q5g5nnewcsvlpz4s2af8) FTE当たり年間`\$190k`。
 - トレジャリーから支払われるコントリビューターは従業員ではなく、支払額は給与ではありません。これはコンサルティング/契約作業に近く、社会保障、休暇、管理オーバーヘッド、スケジュールの空白期間などを考慮する必要があります。
 - コントリビューターは給与名簿に載っておらず、継続的な支払いの保証はほとんどありません:
 - 次のAmaru予算が承認される保証はなく、常に雇用リスクにさらされています。
 - マイルストーンを達成した場合のみ支払われます (つまり、病気や作業不能の場合は支払いがありません)。
 - Cardanoガバナンスの波やブロックチェーンからの資金受領の複雑さの影響を受けます。例えば、一部のAmaruコントリビューターは、トレジャリー管理に関する法的枠組みの整備中に数ヶ月間支払いを受けられませんでした。

2025年の残余資金による2026年への移行

2025年のトレジャリーの適切な管理 (および市場に恵まれたこと) により、配分資金のごく一部で2025年末までの計画活動をすべて賄うことができ、コンティンジェンシーに頼る必要がありませんでした。

計画通り、Amaruトレジャリーの残余資金はCardanoトレジャリーに返還されました:

- Consensus = A11.90k (
<https://explorer.cardano.org/tx/9bdd86ac951af6aae0bcf12afc7d84149f991b31daaed6d2d95239a6c37023a5>)
- Ledger = A168.75k (
<https://explorer.cardano.org/tx/e54fdd5ad3cf91a7d34da2b9c795a1a841b9c727c44935bdc83af349e5ca080d>)

- Marketing = A39.75k (

<https://explorer.cardano.org/tx/80ac843c71d5c4933877ab671bf377b34bc90abfc4df8287a3e92af806152c48>)

- Mercenaries = A400.00k (

<https://explorer.cardano.org/tx/c05d3cfea09c5f4b2f8613ff8524c1c3c7aab82b88e57965c86dc0f34d8f2ed>)

- Contingency = A300.00k (

<https://explorer.cardano.org/tx/2d8871c264e32bef3ad728738beba5a8b4c78edccaf51e8c3ab693ff697f21fc>)

本提案の執筆時点では、2025年末のいくつかの請求書が残っていることに留意してください。これは、一部のトレジャリーアドレスがまだ完全に空になっていない理由です。これらは、すでに署名済みの見積書に対する引当金であり、間もなく支払われます。

2025年が終了し、予算で規定されたとおり、Amaruの財務を監査するために外部企業に委託しました。完成次第、完全な監査報告書が公開され、ソーシャルチャンネルで共有されます。

トレジャリー管理の透明性

最初のトレジャリー引き出しと同様に、スマートコントラクト (

<https://github.com/pragma-org/amaru-treasury>) を使用してトレジャリーを管理し、支出を制御します。また、コントリビューターへの最終支払いまで市場のボラティリティから価値を守るため、可能な場合によっては (Cardanoネイティブの) ステ이블コインでトレジャリーを保全する予定です。

さらに、すべての支出は引き続き公開ジャーナル (

<https://github.com/pragma-org/amaru-treasury/tree/main/journal#journal>) に記録され、最終的にオンチェーンで追跡可能です。

チームと予算管理

私たちについて

Amaru (<https://github.com/pragma-org/amaru>) は複数の団体による取り組みであり、現在 PRAGMA (<https://pragma.io>) の下に位置しています。PRAGMAは、ブロックチェーンソフトウェアプロ

プロジェクトのための会員制非営利オープンソース団体です。同等の権限を持つ5名のメンバーが、PRAGMAの戦略と運営を推進しています。特に、Amaruのメンテナーコミッティとその進捗を監督しています。2026年に任命されたメンテナーコミッティは、以下のスコープを担当します:

- オペレーション & ユースケース、管理者: Damien Czapla <https://github.com/Dam-CZ>
- コア開発、管理者: Matthias Benkort <https://github.com/KtorZ>
- ネットワークコンプライアンス & Cardanoレベルテスト、管理者: Paolo Veronelli <https://github.com/paolino>
- ミドルウェア統合、管理者: Pi Lanningham <https://github.com/Quantumplation>

メンテナーコミッティを構成するスコープオーナーに加え、多くの優秀な開発者 (<https://amaru.global/about/>) が Amaru に精力的に貢献しています。Julien (<https://github.com/jeluard>)、Arnaud (<https://github.com/abailly>)、Joshua (<https://github.com/yHSJ>)、Geoff (<https://github.com/geofflittle>)、Eric (<https://github.com/etorreborre>)、Stevan (<https://github.com/stevana>)、Lucas (<https://github.com/rvcas>)、Roland (<https://github.com/rkuhn>)、Jonathan (<https://github.com/jonathanlim222>)、Ethan (<https://github.com/rrruko>) など、多数の貢献者がいます。

予算管理

Amaruメンテナー委員会は、オンチェーンスマートコントラクト (<https://github.com/pragma-org/amaru-treasury>) の支援を受けて、直接的な予算管理を行います。

コントリビューターの資金管理、責任、報酬は、付録のPRAGMA Maintainer Committee Framework (<https://ipfs.io/ipfs/bafkreiabxyva5lfm6zztg7tnktxvvbbucljrce7hlrp4p6hropqzfaip3y>) に記載されているPRAGMAの法的枠組みに従います。

さらに、スマートコントラクトの役割は、この予算で定義されたスコープに従い、関連するスコープオーナーによって承認された資金が支出されることを保証することです。

オンチェーンプロセス

スマートコントラクトの以下の機能を認識しています:

1. 通常の引き出し: スコープオーナーが他のスコープオーナーに対し、自身のスコープからの資金引き出しを要求します。
2. コンティンジェンシーの引き出し: スコープオーナーが他のスコープオーナーに対し、コンティンジェンシーファンドからの資金引き出しを要求します。
3. スコープの調整: スコープオーナーが他のスコープオーナーに対し、所有権の変更(または予算の再配分)を要求します。
4. コンティンジェンシーの返金/終了: スコープオーナーがコンティンジェンシー予算の残余をCardanoトレジャリーに返還することを要求します。
5. 認証情報のローテーション: In case of lost credentials or the departure of a scope owner, a mechanism allows the rotation of credentials to a new scope owner upon approval by all (5 out of 5) PRAGMA members (effectively capturing PRAGMA's board decision to appoint new maintainers)により支援されます。
6. フェイルセーフ: 認証情報が回復不能に失われ、さらなる意思決定が不可能となる極端なシナリオでは、フェイルセーフメカニズムにより未使用の全資金がCardanoトレジャリーに返還されます。

オフチェーンプロセス

コントリビューターへの資金支払いは、メンテナーコミティフレームワークに従い、コントリビューター契約に対応する必要があります。コントリビューター契約は以下の手順で締結します:

- スコープオーナーが目標と成果物のリストを策定します。
- その後、コントリビューターとスケジュールを協議し合意します。
- 作業範囲がマイルストーンと予定される支払いを含む契約書に正式化されます。

要点はシンプルです: オフチェーン契約がスコープオーナーとコントリビューター間の合意を具現化し、マイルストーンが定期的な成果物と支払いを保証します。これにより、監督なしの作業が長期間続くことを防ぎ、定期的なコミュニケーションを促進し、コントリビューターが安定したペースで支払いを受け続けることを可能にします。

(Amaru)トレジャリーからの支払いを実行するには、以下の手順が必要です:

- スコープオーナーが完了した作業を可視的に確認・承認します(通常、プルリクエストの確認・承認による)。
- コントリビューターが承認された成果物に関する請求書をスコープオーナーに送付します。
- トランザクションが構築され、メンテナーコミティによって署名されます。トランザクションには請求書とマイルストーンの詳細が含まれなければなりません。
- トランザクションは公開ジャーナルに記録されます(オンチェーンでの可視性に加えて)。

プロジェクト管理と貢献

オープンソースプロジェクトとして、我々は透明性を重視し、潜在的なコントリビューターをできる限り歓迎することにコミットしています。具体的には:

- 引き続き定期的なデモの実施を目指しています(平均2ヶ月に1回)
- プロジェクトの共通目標を設定しています
- 作業項目は成果物マイルストーンの形で計画され、通常1人のコントリビューターに割り当てられます。

また、プロジェクトは成熟しつつあり、作業、計画、実行の方法もより体系化されてきています。参入障壁は依然として高いものの、外部コントリビューターや関心を持つステークホルダーの双方にとって、プロジェクトの進捗をさらに追いやすくすることにコミットしています。

現在の隔週(公開)メンテナーミーティングを、より頻繁なマイルストーン志向のスプリントに移行する予定であり、今後の作業や議論をGitHub上でより体系的に記録しつつ、引き続きウェブサイト(<https://amaru.global>)を使用して情報を集約・整理します。

四半期報告

PRAGMAの決議記録006(

<https://github.com/pragma-org/PDRs/tree/main/PDR-0006-Project-Reporting>)に従い、Amaruの進捗は少なくとも四半期ごとに報告されます。これらの報告書(

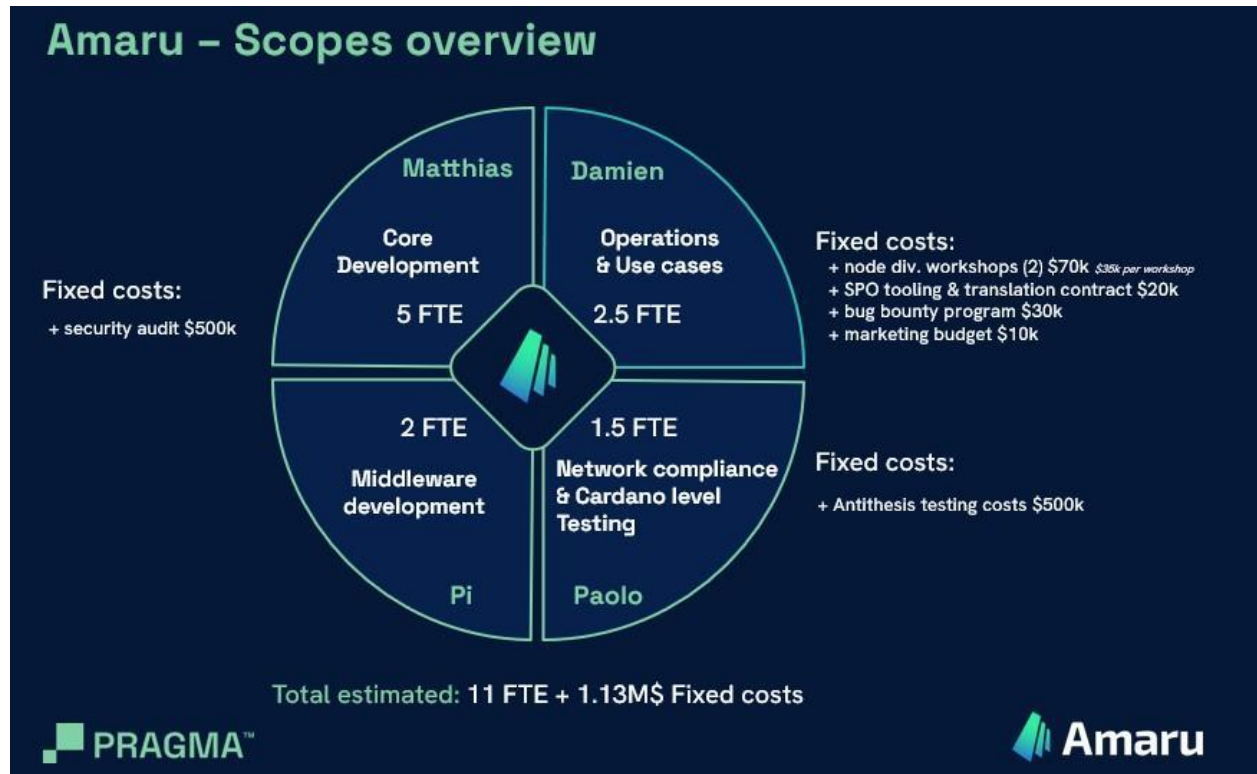
<https://pragma.io/projects/amaru#quarterly-reports>)の内容は明確であり、以下を含みます:

- 理事会の注意を必要とする問題(インフラ、商標など)
- プロジェクトのステータス(アクティブ、非アクティブ、開始中など)
- 変更履歴(最新のコミッター追加)
- 次の計画ステップ(新リリース、重要な変更など)
- 振り返りとパフォーマンス

この定期的なインタラクションにより、プロジェクトの概要と長期的なトレーサビリティが提供されます。

予算内訳

全体像



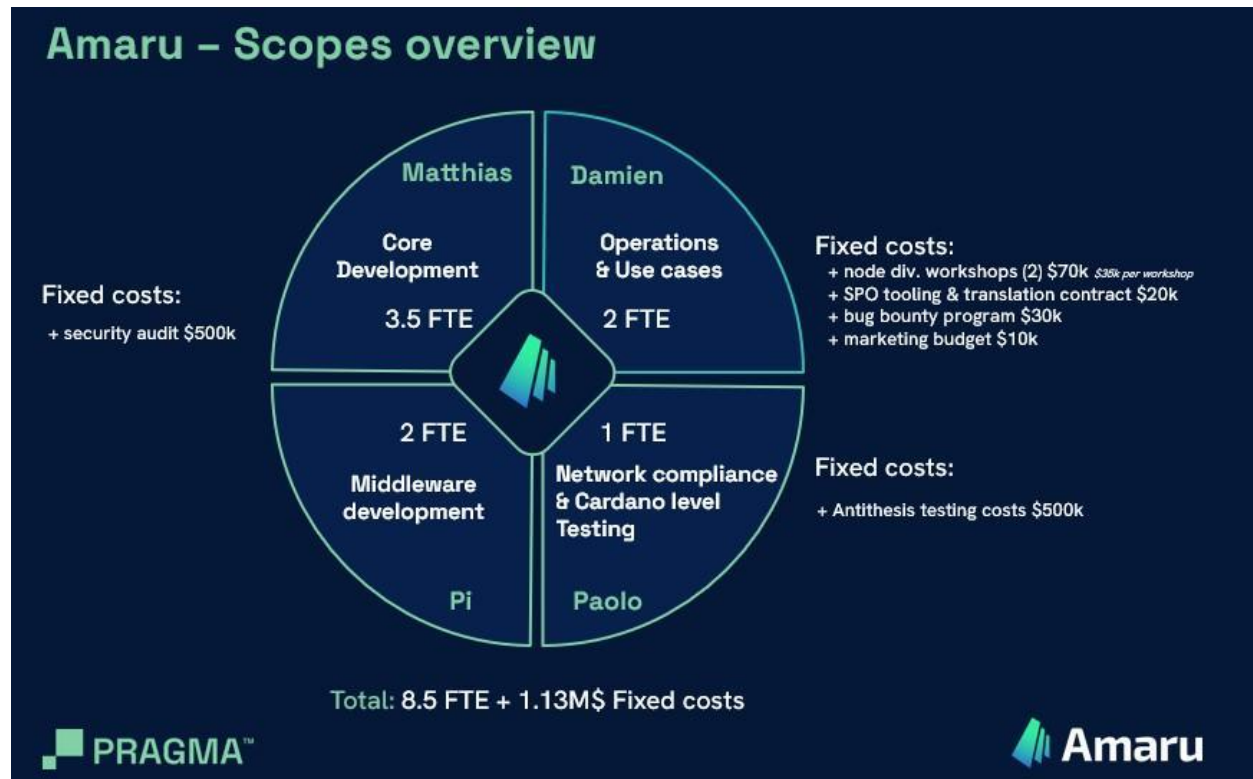
スコープ	見積工数 (FTE)	資金確保済 (FTE)	要求 (FTE)	固定費 (\$)
コア開発	5 FTEs	1.5 FTE	3.5 FTEs	\$500k
オペレーション & ユースケース	2.5 FTEs	0.5 FTE	2 FTEs	\$130k
ネットワークコンプライアンス & Cardanoレベルテスト	1.5 FTEs	0.5 FTEs	1 FTEs	\$500k
ミドルウェア開発	2 FTEs	0 FTEs	2 FTEs	

スコープ	見積工数 (FTE)	資金確保済 (FTE)	要求 (FTE)	固定費 (\$)
合計	11 FTEs	3.5 FTEs	8.5 FTEs	\$1.13M

見積固定費には以下が含まれます:

- (コア開発)\$500k セキュリティ監査(8週間、エンジニア2名);
- (オペレーション&ユースケース)\$70k ノードダイバーシティワークショップ(2回予定、各\$35k);
- (オペレーション&ユースケース)\$10k マーケティング(Cardano Summit参加を含む);
- (オペレーション&ユースケース)\$20k SPO契約および日本語翻訳費用;
- (オペレーション&ユースケース)\$30k バグバウンティプログラム;
- (ネットワークコンプライアンス&Cardanoレベルテスト): \$500k エンドツーエンドテスト活動に関連するAntithesisプラットフォームコストおよびインフラの年間見積。

要求総額



USD小計

プロジェクトの要求総額は8.5 FTEs + '\$1.13M'(固定費)です。

FTEは年間請求レート'\$225k'となります。

これにより、合計は以下となります: $8.5 \times \$225k \times 1.2 + \$1,130k = \$3,425M$

トレジャリー評価レート

我々は引き続き'**0.5 ADA [A] per USD [\$]**'という保守的な換算レートを使用しています。このレートは過去2年間の加重平均価格計算に基づいており、'\$0.5'から'\$0.6'の価格帯となります。我々は“bearishly”その範囲の下限を「弱気に」考慮しています。

これにより基本配分額は $\$3,042,500 / 0.5 = \textbf{A\$6,085,000}$ となります。

コンティンジェンシー: 市場リスクバッファ

ADAが'\$0.5'未満の間、一貫して過去60日間で取引されていることを踏まえ、ADAを少なくとも1USDあたり0.5 ADAの価格で取引できない市場状況を補償するための追加コンティンジェンシー予算も検討しています。

過去60日間で、ADAは約'\$0.34'の平均安値で取引され、下落傾向にあることを観察しています。したがって、保守的に'**\$0.3**'をコンティンジェンシーの下限取引価格として考慮しています。ADAが'\$0.5'を上回って取引される場合、コンティンジェンシーは使用しません。'\$0.5'を下回る場合、差額を補填するためにコンティンジェンシーを使用します。

言い換えると、不利な市場条件下での成果物の確実な提供を保護するため、'**\$0.3/A**'までの価格下落をカバーするボラティリティバッファを定義しています。

したがって、コンティンジェンシーリザーブは: $\$3,042,500 / 0.3 - \$3,042,500 / 0.5 \approx \textbf{A\$4,057,000}$ (予算)。

最終要求総額

最終要求額は`A6,085,000 + A4,057,000 = **A10,142,000**`となります。

注:...しかし、それはレート`\$0.3/A`と同じではないか？

そうではありません。コンティンジェンシーは他の配分とは異なるガバナンスの下にあります。全スコープオーナーのアクションが必要です。ここでは、トレジャリーリスクポリシーとしてのみ存在し、市場のボラティリティを補償するためにのみ使用されます。特に、予算外の活動の資金調達には使用されません。

もちろん、コンティンジェンシーおよび他のスコープの残余は、この予算期間の終了時にCardanoトレジャリーに返還されます。最悪のシナリオ: 市場が年間を通じて平均安値`\$0.3`以下にとどまり、コンティンジェンシーを完全に消費せざるを得ない場合。より良いシナリオでは、より好ましい市場条件を活用し、合理的に可能な限り多くのコンティンジェンシーを返還します。

憲法適合性チェックリスト

提案の憲法適合性を確認するため、カバーするポイントのチェックリストと、それぞれに対するCardano憲法の解釈を含めることが適切と考えました。

第I条 - 第1項: 基本原則

- [x] この提案は、Cardanoのセキュリティ、分散化、長期的な持続可能性を強化することを目的とした作業のためのものです。

第II条 - 第3.1項: スマートコントラクトの使用

- [x] amaru-treasury (<https://github.com/pragma-org/amaru-treasury>) に詳述されている複数の(オープンソースかつ監査済みの)スマートコントラクトを活用して要求された予算を管理しています。

第II条 - 第6.1項:形式

- [x] この提案は、すべての文書化されたオフチェーンコンテンツのURLとハッシュを含む、標準化された読みやすい形式で提出されています。さらに、提案のメタデータと付録文書は不変のストレージにホストされ、コンテンツアドレスされています。

第II条 - 第6.2項:関連性

- [x] 我々の根拠は詳細かつ十分であると考えています。提案にはタイトル、要旨、提案の理由、および関連する裏付け資料が含まれています。

第II条 - 第7.1項:引き出しの条件

この提案には以下が含まれます:

- [x] 明確な引き出し目的:2026年のAmaru開発の(部分的な)資金調達;
- [x] 引き出しが使用される提案活動の実施期間:2026年を通じて、マイルストーンの内訳 (<https://ipfs.io/ipfs/bafybeiaaww25iad3dfkst46ncovcpouuqns66tqugwknvgdejqbenjsb6q>) および大まかなスケジュールが付録に記載;
- [x] 提案活動の関連コストと費用:固定費と変動費の明確な分離、FTE(常勤換算)としてモデル化、さらに市場のボラティリティに対応するためのコンティンジェンシー。完全な内訳 (<https://ipfs.io/ipfs/bafybeiaaww25iad3dfkst46ncovcpouuqns66tqugwknvgdejqbenjsb6q>) は付録に記載。
- [x] 引き出しがCardanoトレジャリーに返金される可能性のある状況:スマートコントラクトにより、予算期間終了後(2026年12月31日)に残余がトレジャリーに送り返されることが強制されます。残りのコントリビューターへの支払い後の未使用予算は、2027年のできるだけ早い時期にトレジャリーに返還されます。

第II条 - 第7.2項:過去の引き出しの開示

- [x] 冒頭で述べたとおり、これが過去24ヶ月で2回目の引き出しであることを開示しています。前回は2025年6月に提出され、2025年7月に実施されました。

第II条 - 第7.3項: 純変動限度額

- [x] この提案は最近設定された純変動限度額

(https://explorer.cardano.org/governance-action/gov_action1m3xx08yv788vfxqh6nfvrtvmqpw_ezsy0ggaczctkyjmttc2wmxsq4jsr7q) の350M (Epoch 613からEpoch 713をカバー) に従っています。提出時点で、この提案は制限内に十分収まっています。

第II条 - 第7.4項: 定期監査

この提案は以下の規定を設けています:

- [x] 定期的な独立監査 (予算内訳参照

<https://ipfs.io/ipfs/bafybeiaaww25iad3dfkst46ncovcpouuqns66tqugwknvgdejgbenjsb6q>); および

- [x] 同種のお他プロジェクトとの進捗および予算使用を評価・比較する手段としての複数の「ノードダイバーシティ」ワークショップ。

第II条 - 第7.5項: 管理

- [x] この提案は、この規定に従って管理者を指定しています。また、スマートコントラクトとオフチェーンの監視委員会を使用する内部管理プロセスを指定しています。

第II条 - 第7.6項: トレジャリーの監視

- [x] この提案は5つの別々のスクリプトアカウントで資金を引き出し、各アカウントがすべての運用に対する公開監視を提供し、資金がSPOIに委任できず、常に棄権するDRepにのみ委任できることを保証します。

- [x] スマートコントラクトが提供するオンチェーン保証に加え、最初の引き出しと同様の方法でオフチェーンジャーナリング

(<https://github.com/pragma-org/amaru-treasury/tree/main/journal>) にもコミットします。

ガードレール

- [x] ガードレール_TREASURY-02a_に従い、この引き出しは提出時点でNCLを超えていません。
- [x] ガードレール_TREASURY-03a_に従い、この提案は最終的にADAで表示されています。

提案の憲法適合性を確認するため、カバーするポイントのチェックリストと、それぞれに対するCardano憲法の解釈を含めることが適切と考えました。

結論

Amaru(<https://github.com/pragma-org/amaru>)プロジェクトは、Cardano向けのモジュール式、高性能、相互運用可能なブロック生成ノードを開発することにより、ノードダイバーシティに向けた大きな一歩を表しています。オープンさ、イノベーション、運用の回復力に根ざした我々のアプローチは、セキュリティを損なうことなく、ブロックチェーン技術の大幅な進歩を実現することを目指しています。

短期間でチームが達成し提供した成果を非常に誇りに思っており、当初計画したロードマップに調整を加える必要があったことも認識しています。プロジェクトコントリビューターの調整と作業環境の構築に予想以上の時間を費やしました。

2025年の振り返り

(<https://ipfs.io/ipfs/bafybeib3shps4kxggpy477uuhwoeqcy2qgi2wrniuiujm7fc56x2j6lhwe>) は、昨年の成果、および直面し克服しなければならなかった障害を強調しています。Cardanoトレジャリーを使用してオープンソースプロジェクトを分散型で管理することは学びの挑戦です。これらの学びは2026年の予算内訳

(<https://ipfs.io/ipfs/bafybeiaaww25iad3dfkst46ncovcpouuqns66tqugwknvgdejqbenjsb6q>) およびプロセスの進化に直接反映されています。

これにより、次のステップを確実に実行できると確信しています。そして、Amaruが代替Cardanoノード実装が可能であることだけでなく、パフォーマンス、テストビリティ、保守性の大幅な向上を実現できることを示していると強く信じています。

AmaruがCardanoエコシステムの分散化と回復力に貢献していることに疑いの余地はありません。これはCardanoの将来にとって重要な道であり、Cardanoコミュニティとともに歩むことを強くコミットしています。